調 查 名 中央消防署移転改築工事地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

				>- FNo
ボーリング名	No. 5	調査位置	福岡市中央区那の津2 丁目地内	北 緯33°35'55.9"
発 注 機 関			調査期間 平成 27年 8月 4日 ~ 27年 8月 8日	東 経130°23'36.8"
調査業者名	株式会社アイ・デベロップ・コンサルタンン 電話 (092-581-1732)	主任技師 柴田秀道	現 場 平尾正名 コ ア 金子博信 鑑定者	ボーリング 土井正雄
孔口標高	2. 284m	北0° 地 使 90° 盤 小水平0° 用	試 錐 機 YBM-05 ハンマー 落下用具	半自動型
総掘進長	西	90° 盤 水平0° 用 製	エンジン NFAD-8 ポンプ	G P - 5

総	掘う	進	į.	. 284m 38. 06m	度	下 0) 9	20°	270° 90° 盤 50° 南 日 180° 南 日 180°	智2	(1 0	l A	446	エン	ジン				N F	A D	- 8				下用ン	プ		G	P -	5		_		
標	標	層	深	柱	土	色	相	相	記			孔为				ŧ	票	進	貫	入	試	験				原	位	置試り) 討	北米	- 採		室	掘
					質		対	対				۱. –	Ή.	.0cm <u>г</u>		打撃回				N		値				深		式 験 名	1 "	r K	試	採	内試験	進
尺	高	厚	度	状	区		密	稠				(m) 川		丁撃[20	回数/#				_	•					度	\) × 0 //4 //	` 	Ę		取	<u></u>	月
(m)	(m)	(m)	(m)	図	分	調	度	度	事			定月	(m) 1	5 5	5	貫入量										(m)						方 法	_	日
-	(/	()	()		・ シルト 質細砂	茶灰			GL-0.05m までアスファルト GL-0.05~0.3m : 瓦礫混り砂 全体に細粒。下部は粗粒化。	埋		E ((m) 1	.0 20	30	(cm)	0		10		20		.0	40	50) (1117	Ì	/		/		+		
1	0. 53	0. 70	1. 0	5	シルト	暗灰		極軟い	均質なシルトで粘性はない 貝殻小片混入。含水量は中位。	- 立 土 /		55	15 1 30 45		_	30 1	•										-		1					
2					中砂	淡灰	緩い		中砂〜粗砂分が主。細粒分含有量は少ないが、粒度分布は広い含水量は中位。貝殻小片混入。 GL-3m付近は粘性土分が多くな	19		2.	15 1	2	2	5 30 5											-		1					
- 3	-0.87	1.40	3. 1						若干の粘性が有る			3.	15 1 20	1	\dashv	30 2	1										-		1					
- 4				war.	砂混り							4.	15 1 31 50	5		35 1	•																	
- 5 -					シルト	暗灰		極軟い	含水量は多く軟質である 少量の砂分を混入 比較的均質で粘性は強い	沖			15 1 31 58	5		35 1																		
- 6				TANK TO THE PARTY OF THE PARTY	質粘土			·	貝殼小片混入	積層			50 15 1	ハンマ	· _ i	int.																		
7				The state of the s								7.	50			35 1													1.,					
- 8	-5. 87	5.00	8. 1		粘土質 岩砂	暗灰	極緩		中砂〜粗砂分を主とするが、粘性土分を多く混入し、粘性が強い部分も見られる			8.	15 2 50 15 1	25	1	3 35 3	1												8. 1		試料ない			
10	-7. 42	1. 55	9. 70	0			11		含水量は多い。不均質である。 中砂〜粗砂分が主。部分的に粘	4		9.	45	4	1	30 3 7	4																	8-
- 10 - - 11	-8. 22	0.80	10. 50		砂	暗 灰	緩い		性土分を多く混入し粒度分布は 広い。含水量は中位~多い。 不均質である。	₁ ↑		10.	. 45			30 7 15		×																4
12					中砂	淡灰	中位の		中砂〜粗砂分を主とし、細粒分 は少ない。 粒度分布は広い。 含水量は中位〜多い。				. 45	7		30 1	5																	
- 13	-10. 77	2. 55	13. 0	5			0)		下部は粗粒化し、粗砂及び小礫を混入する			12.	. 45 . 15 1	1	1	30 2:	2	_			•						_							
14					砂質粘-	淡青灰		軟い~硬	半ば固結するがL-13m付近は複色を呈し、含水量が多く、軟い。 以深は、含水量は少なく半ば固結する。細砂~中砂分を混入し	5			. 45	4	3	30 3 10	•										_							T
-	-12. 42 -12. 82	1. 65 0. 40	l		土細砂	淡灰		iñ	粘性は強い。 細砂~中砂分が主。細粒分は少粒度分布は広い。含水量は多い			14. 15.	. 45 . 15 1	1	1	30 10)										_		-					
- 16					シルト	青		軟	少量の砂分を混入する。 含量は少なく粘性が強い。 比較的均質である。				. 45 . 15 1	1	2	30 3		ĺ									_		-					
- 17	-14. 92	2. 10	17. 20		質粘土	灰		Į,	腐植物片混入。 GL-16.1~-16.15m 間に砂の薄層 を挟む。				. 45 . 15 5	4	5	30 4				_									-					1
- 18	-15. 52	0.60	17. 80		粘土質 中砂		中位の	中位	中砂〜粗砂分が主。粘土分が多 く、粘性が強い。含水量は中位。 花崗岩質の粗砂及び小礫を混入 含水量は少なく、粘性が強い				. 45	3	2	7 30 7		_/	/	•							_		-					
- 19	-16. 52	1.00	18. 80		砂粘 粘 粘 半 が 質		中位の	<i>Б</i>	中砂分混入。強い指圧で崩れる 中砂〜粗砂分が主。粘性土分多 く粒度分布は広い。含水量は中	1			. 45 . 15 5	5	5	15 30 1	5	_		•							-		-					
20	-17. 42 -18. 17	0.90	19. 70 20. 4!		中心 シルト 質中砂		中位の		位。不均質。粘性土薄層を挟む。 含水量は少なく半ば固結する ブロックは強い指圧で崩れる 粗砂及び小礫を混入	- 積層		19. 20.	. 45 . 15 10	0 8	5	23 30 23	3										-		-					
21				The state of the s	砂混			中	含水量は少なく粘性が強い 貝殻片及び腐植物混入	$\left \cdot \right $		20. 21.	. 45 . 15 2	1	1	4 30 4											-		-					
- 22				THE REAL PROPERTY AND ADDRESS OF THE PARTY ADDRESS OF THE PARTY AND ADD	り粘土	青灰			GL-22.1 ~22.45 間に径 ~20mm の礫を混入 下部、細砂~中砂分混入			21. 22.	. 45 . 15 2	1	2	5 30 5											-		-					
- 23	-20. 52	2. 35	22. 80						the state of the s			22. 23.	. 45 . 15 4	2	4	10 30)										-		-					
- 24					粘土混	淡	中位の		中砂〜粗砂分を主とするが、粘 性土分を多く混入し、粒度分布 は広い。 花崗岩質の小礫及び砂を混入。			23. 24.	. 15 5	6	6	17 30	7										-		-					
25					能り中砂	青灰	~ 緩い		含水量は中位~多い。 粘土分が多い部分では強い粘性 が有る。 不均質である。				. 15 2	2	3	7 30 7		•									-		+					
- 26	04.50	4.00	00.00						GL-26.15 ~26.25m, GL-26.4 ~ 6.45m 間粘土を挟む。	2		26.	. 45	3	3	8 8											-		-					8 5
- 27	-24. 52 -25. 37	0. 85	26. 80		砂混りシアドナ	暗褐		極硬い	全体に有機質で炭化物を混入 含水量は少なく、粘性は弱い 少量の細砂~中砂分を混入			26. 27. 27.	. 15 5	4	10	19 30	•			>							-		-					
- 28	-26. 52	1, 15	28, 80		数十級	淡青灰	中位の		中砂〜粗砂分を主とするが、粘 性土分を多く混入し、粒度分布 は広い 含水量多く、若干の粘性が有る				. 15 3	3	4	10 10)		\langle								-		1					
- 29	20.02	1.10	20.00		36	₩-			やや固結したシルト質粘土状を 呈する。	١		29. 29.	. 15 6	6	7	19 19	,			7							-		-					-
30					強風化頁岩	茶褐~青			含水量は少なく、粘性が強く硬質である。 比較的均質である。			30.	. 15 4		8	17 30	7				_	_					-		1					
31	-28. 72	2. 20			岩	灰			ブロックは強い指圧で崩れる。 GL-32m付近は指圧で容易に崩れ 粘性土状になる。			31.	. 15	8		60 18 10	0								\				-					
32	-29. 72 -30. 22	0.50	32. 50		強風化	褐			褐炭質。指圧で崩れ径5mm程度の 岩芯が残る。含水量は少。崩土に 粘性はない。	古		32. 32. 33.	. 15 8 . 45 60	0_		40 30 60)							K	<u>/</u>				1					
33	-31. 22	1.00	33. 50		風化頁	淡灰			強い指圧で崩れ粘性土化する 谷5~8mm 程度の岩芯が残る	第三紀		33.	. 08	2	+	8 22 60	5								\rightarrow				1					8
34										層		34.	. 08	9	\parallel	60	5								→				1					6
35					風化頁	暗座			L=10cm程度の硬質コアとなる コアは指圧で崩れない CL-28m 付近 視岸層を挟む。			35.	. 08			60	5								→				1					
36					岩	灰			GL-38m付近、渇炭層を挟む 白〜褐色の葉理が入る			36.	=	2		10 18 60 8 22									\rightarrow				1					
37	-35. 78	4 56	38. 06									37.				60									\rightarrow									8 7
- 38	55, 10	-1. 00								П			. 08					:							->		<u> </u>]					,-
									こり現況と整合しない																				ん。					_

・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があり、現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。 ・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。